

一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

第17回 会員総会

議案資料

2019年6月24日（月）

（15：00～16：30）

グランハート町田 レンタルルーム トマト

・議 案・

- 第1号議案 2018年度 事業報告書（案）…1～12頁
- 第2号議案 2018年度 決算報告書（案）…13～20頁
- 第3号議案 会員規程改定（案）…21～23頁

一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

2018年度町田市介護人材開発センター事業実績報告書（案）

1 総括

2018年度は、町田市介護人材開発センター（以下、センター）事業が7年を過ぎ、各種連絡会等の関わりもさらに多くなった。また、町田市からの受託事業も多くなり、町田市の介護保険関係事業の要になれるように進めてきた。町田市からの期待も感じ取り、センターとしての役割を認識しながら事業の実施に取り組んだ。

センターの認知度の向上を図るため、研修や連絡会、関係団体の情報等をホームページ、メールで提供し、フェイスブック等のSNSの活用、「まちカフェ」や市民センター「電子掲示板」「タウン誌」など広告媒体も活用し、また、町田市の協力も得て、公共施設へのポスター掲示など、市民及び関係者等への啓蒙・周知に取り組んだ。

会員事業所数も3月末時点で402事業所となり、昨年の同時期に比べ33事業所増加となり、約73%から75%の入会率となった。会員数を増やしていけるセンターの役割を考えていく必要がある。

財源の安定に向けては、受託事業を増やすことや介護人材バンクの安定した経営を目指して実施していくことが今後も継続して必要である。

個別の事業については、計画書の事業番号に添って下記に報告する。

(1) 人材確保事業

- 01 ハローワーク町田との共同面接会を継続し、雇用機会を維持する取り組みを実施した。年11回実施、113名の求職者が参加され18名が就労に至った。しかしながら、昨年度と比較すると参加者数は50名の減、就労者数も12名の減となった。ハローワーク担当者と少しでも参加者が多くなるように協力して取り組んだが、有効求人倍率が増加し、雇用情勢が上向きと言われる昨今はハローワーク全体でも来所者が少なくなっていると聞いている。介護分野に特化した定例の面接会は唯一であるため、今後も、ハローワークと連携して参加者を増やしていきたい。
- 02 町田市社協「福祉のしごと相談会」に協力、後援し、採用機会の確保に努めた。昨年度より約4名多い97名の参加者数であった。町田市内での就活として考えていくと、高齢者分野に限らず行えることで参加者は多かったかと思う。ハローワークとの共催という点からも求職活動の一環として来場した参加者もあったと考える。東京都社会福祉協議会への協力として実施していることから、案内は都内全域にされており、町田市内32名、市外30名・未記入35名であったと考える市内からの参加が少なかったと考えられる。
- 03 学生向けの就活フェアを実施し、次世代を担う人材の確保に努めた。参加法人は16法人と例年と変わらず多かったが、参加した学生は4名と昨年より10名減となった。参加法人からは参加者数を増やすような取り組みへの要望があったが、学校からの情報では求人が多いことや自宅近くでの就職希望者がほとんどで、学校の近隣での就職に必ずしも結びついていないことが分かる。学生が直接、法人の職員と話ができる機会として有効性はあると考える。過去の反省を踏まえて、学校からの提案により開催時期を平日に見直し、町田市広報での周知、学校への数回の訪問、ホームページ、フ

フェイスブックなどで掲載・案内などを実施したが、学生の参加人数は増えなかった。開催を含め違う方法での学生向けのアプローチを考えていくことが必要と考える。

- 04 市民向け介護技術講習会を継続し、家族介護者の基礎介護技術習得、介護や認知症への理解を深めるとともに、介護の仕事に関心を持つ参加者への就職支援、現任職員への基礎介護技術の学び直しの機会となった。参加者は昨年度より10名多くなった。市民は55名、事業所26名の参加となり、市民の参加が多く、必要性和期待を感じられる。基本動作（立つ・座る・寝返り）から実施していることで理解が得られやすく、移動・移乗介助などの基本を時間がある限り介護する側・される側で体験することで、研修への理解が深まっていると考える。高齢者疑似体験を取り入れたことで、障がいを持っている方へのイメージが付きやすく参加者も楽しみながら良い体験になっていると好評である。市民の参加も常に約半数あり、市民から一定の要望を得ている講習会である。
- 05 学校での特別授業では専門学校と高校の2校で実施。専門学校では卒業生を講師として、高校では病院と高齢者支援センターの相談員が講師として、「地域包括ケアシステムに向けた多職種連携」について現状と将来に向けて学生とディスカッションできたことで参加した学生が対象者とのコミュニケーションの取り方などを学ぶ機会となった。また、将来に向けたイメージが持てたと好評であった。それぞれの内容や進め方に違いは出たが、学校側からの目的に沿った進め方ができたと考える。2回とも学生から好評を得られたこともあり、2校に限らず、特別授業を行う学校を広げていくことも今後の介護の担い手の道筋をつけていく上で必要であると考え。
- 06 町田市内で開講する介護職員初任者研修の情報提供を年6回実施。これを見て受講した方もあった。
- 07 町田市内養成校卒業生就職状況調査を実施。市内大学・専門学校など6校に依頼し、全学校の回答を得る。2017年度卒業生の合計は2,675名。全体で介護福祉施設に就職した学生は125名であった。そのうち、町田市内の介護福祉施設に就職した学生は22名で介護施設に就職した学生（125名）の17.6%であった。市内から通学している学生ばかりではないため、自宅近くで就職を希望する傾向や、福祉専門分野の学生だけの集計ではないことにより低い数字が出たと考える。介護職員不足を補っていくには、専門分野の学生にとらわれず、様々な分野で学んでいる学生に一人でも多く、興味を持ってもらえるような働きかけが必要である。
- 08 町田市内介護保険事業所介護職員雇用動向基礎調査を実施。介護職員がいる対象事業所331事業所に対して176事業所から回答があり、回答率は53.2%であった。その中で、介護を担う職員では非正規職員の割合が高く、そのうち、訪問介護員では約8割、介護職員では約5割が非正規職員であった。訪問介護員では約87%、介護職員では約48%が不足状況にあると回答しており、訪問介護員、介護職員ともに慢性的な不足状況にあることが伺えた。今回の調査では正規介護職員の定着率は約18%と低くなっている。当センターの研修に参加している事業所は59%（昨年度53%）と低かったがその中でも83%（昨年度87%）が「職員の質の向上になった」と回答していることから、当センターにおける事業が評価されていると考える。しかし、回答率が53.2%（昨年度45%）と依然低いことから参考評価にとどめ、更なる事業の展開、あり方を検討する必要がある。

- 09 「町田市介護人材バンク」事業では有料職業紹介を実施、周知活動に力を入れてきた。毎月各地域の市民センター等に出向き出張求職相談登録会を実施した。前年度の周知活動に加えて市民センターの電子掲示板や「まちカフェ」等での相談対応、ティッシュの配布等を様々な機会に行った。求職登録者数は12名で、そのうち仕事を紹介し就労に至ったのは6名であった。求職登録者数、就労実績いずれも前年度の3倍となったが、まだ認知されているとは言い難く、それぞれに事情を抱えた相談登録者が多く、常勤として就労可能な登録者の確保は厳しい現状である。人材確保に対して有料職業紹介を積極的に活用する法人と消極的な法人に分かれる。実績を積み上げて行く事で認知度を上げて行く。

(2) 人材育成事業

- 10・11・12 町田市介護保険課共催研修として「法令遵守研修」を各連絡会別に実施。合計で5回、延べ357名の参加を得た。昨年度は5回実施し、延べ362名の参加であったが、今年度5名の減となった。「相談援助研修」では「初級編」延べ163名、「上級編」276名の参加を得た。昨年度よりも延べ74名の増となり、双方の研修で定員を上回ることができた。主任ケアマネジャー推薦要件研修の位置づけであったことも参加者数増の一因と考えるが各職種で相談技術の向上を目的にした参加者も多くなっている。「法令遵守研修」は各連絡会によって参加人数にばらつきがあるが、プランニングを担当する支援センター・ケアマネジャーに対しては基本的にはどの研修にも参加を呼びかけて、各事業職種の理解を深めていくための研修とも位置づけている。多職種・同職種の連携を作っていく場としても、研修会は必要である。市内各事業所が適正なサービスを提供していくためにも、今後も町田市と連携して実施していく必要がある。「地域包括ケアシステム」をより意識し、医療職などとも連携した「法令遵守研修」も検討が必要と考える。
- 13・14 町田市高齢者福祉課共催研修として「高齢者支援センター職員向け虐待研修」、「権利擁護研修」を実施。延べ182名が参加し、昨年度より引き続きの研修となったため8名減となった。権利擁護事業の必要性や制度を理解していきたいと考える事業所が増加していると考え。また、難しいケースが年々増えてきていることと質の向上を目指す参加者も増えていると考え。「権利擁護」というテーマで年1シリーズ実施。前回と同様、続けて2月から5月に違うテーマで行うことにより、より深く学ぶことができると考えている。実際にあつた困難事例で学ぶことが出来たことや多くの人が関わり、ケア会議で役割を決めていくことで、スムーズに運べたという点、またインフォーマルの役割なども学べた。事例を交えながら、地域権利擁護事業のイメージができた。社会福祉協議会のサポート範囲等色々な情報も提供できた。地域で活躍する専門職のレベルアップをしていく上では継続していくべき研修であると考え。参加者からも高評価を得ている。同じ内容で毎年実施するよりは2年に一度の回数で実施することで参加者も増えていくと考える。「虐待防止」は介護保険事業所では必須内容であり、今後も継続していきたい。
- 15 「施設職員向け虐待防止研修」として初めて「NVC」を取り込んだ研修になったが、なかなか対象の事業所になじめなかったのか参加者増員には結びつかなかった。内容

は「言葉の持つ意味」を中心に進められた。参加者11名の内10名から「よかった」と高評価を得た。NVCを活用して、コミュニケーションで生じる問題やズレを整理し、自分と相手の感情・ニーズを明確に言語化していくことで、誤解や偏見をなくし、共感を伴ったコミュニケーションスキルを体感するとともに、そのスキルや在り方を得るきっかけとなったと考える。

- 16 「新任職員研修」には22名が参加。昨年度より1名減であった。新入職員の減少と日常業務での介護職員確保のために研修への参加が難しくなったと考えられる。ほとんどの参加者に高評価を得られたことは、職員を参加させた法人にとっても成果が得られた研修であったと考えられる。年1回の開催であり、新入職員の質の向上、法人の成果を考えていくと、毎年実施、継続していく必要がある。
- 17 「ケアリーダー育成研修」では延べ64名の参加があり、昨年度より延べ19名増となるが定員1回20名、合計80名に対し2割減となった。研修に出しづらい現場の環境があることが一因になっていると考える。3グループでアクティブ福祉での発表ができた。他施設の職員同士が同じテーマで研究していくことで学ぶことが多かったとの高評価を得ている。
- 18 「認知症ケア実践研修」2年ぶりに講師を認知症介護研究・研修東京センターに依頼し実現した。定員30名のところ36名の参加者であり、120%の参加率であった。昨年度は未実施であった。一昨年は26名の参加であった。参加種別で見ると「入所施設」「通所介護」が多く、介護職員の多くが認知症の方への対応に苦慮していることが伺えた。今回は、認知症の基本的な事を学ぶ機会となった。気づきのポイント、対応の方法などや課題についての講義があった。グループワークでは、事例を挙げ各自からの経験談より、情報共有となり、有意義な討議がなされた。
- 19 「職員向け介護技術講習会」募集定員30名のところ申し込みは6名であった。2年ぶりの研修となり、ほかの研修アンケートなどからも「介護技術研修」の希望の多さから参加者も増えるかと考えたが増えなかった。参加者からは高評価を得られている。教科書にはのらない「介護技術」であり、参加者の技術のレポーターは増えたものとする。東京介護福祉士会町田ブロック会からも毎回ファシリテーターとして参加していただき、メンバーの学びの場ともなった。
- 20 「リスクマネジメント研修・事故から学ぶ原因分析と再発防止」延べ17名参加。昨年度より12名減となった。定員30名の3日間であることから約19%の参加率にとどまった。研修のテーマとしては介護現場で働く上では必須と考える「リスクマネジメント研修」と考えるが、参加者が年々減っている。研修参加者からはロールプレイなどで実際に体験してみることもでき好評である。事前に事故を防ぐためには、どのようなことに注意していく必要があるのか、どのようなときに「苦情」になってしまうのか、などを知ることで防ぐことができることなどを学べたと考える。
- 21 「ファシリテーター養成研修」では3回延べ76名が参加。昨年度より31名増となった。今年度も日中で3回実施。昨年までとは違うテーマで「多職種連携によるチームケア」を学ぶ研修を実施。定員を超える参加者数となった。グループワークやロールプレイを通して各職種の理解を深めながら進めていくことができたのではないかと考える。実際に地域包括支援センターで働いている講師であったことから同じ苦労をしている話などもあり、身近に感じながら伝わったことなども高評価の要因にな

- ったと考える。
- 22 「BPSD の原因と理解・支援方法を学ぶ」定員100名のところ、200名を超える申し込みがあったが定員を増やし当日参加者は160名となった。BPSD というテーマにしたこともあったと考えるが、講師は町田市のケアマネジャー連絡会会長で認知症の専門病院の立場も踏まえての内容であったため、参加者からはわかりやすかったなど好評であった。ビデオや写真など視覚につながる内容やグループワークなどの意見共有の場面から好評を得られた。
- 23 「生活保護制度の理解」参加募集定員を50名にしたところ参加申し込み者が144名となり、会場を変更しての90名に増員。そこから各事業所へ調整を依頼し90名の参加者にしたが、結果83名（当日キャンセルあり）となり、少しもったいないと感じた。生活保護制度の研修は今までもなかったことや、実際に現場で働いている市の職員からの話ということもあり参加希望者が増えたことと考える。介護保険制度と生活保護制度の関連性など、確認や新しい知識として得られたことは効果があった。特に「みなし2号」を知らない参加者も多かったようで知ることができ、今後の活動のなかで活かされるのではないかと思う。
- 24 「介護福祉士国家試験対策講座」介護福祉士国家試験の受験要件が、実務者研修を修了者であることと変更になった。受講者8名と前年度（10名）と減少した。「介護福祉士」を取得するための受験講座を低額で実施、講師も実際に過去の試験にかかわっていた方で実際に傾向が学べた。毎年、合格の報告を受けており、今後も一人でも多くの国家資格取得者が介護の仕事を継続していくために意義があると考え。
- 25 出張研修は9団体から15講座「マナー・接遇講座」「看取り」「事故防止」「ユマニチュード」等メニューも増え422名の参加、昨年度より226名の増となった。
- 26 「アクティブ福祉 in 町田」は12年目を迎え「町田市医療・介護・福祉研究発表大会」として、21題の発表題数で実施した。総参加者数、昨年度（554名）よりも約100名の減であった。今年は会場の工事の関係もあり10月開催となり、学校の学園祭とも重なり学校関係の参加者数も約70名減少した。発表する学校以外にも幅広く周知したが発表の学校が参加するのみにとどまった。町田市内の施設職員が実行委員もしており、そちらにかなりの人数を要したことや「福祉用具展示」が福祉用具事業所連絡会からと7社と少し減少、「介護ロボット」と銘打って展示に参加していただいたが、参加者からはわかりづらいついとの意見があった。市民向けの内容として「健康機器測定会」「介護川柳」を取り入れた。介護川柳に関しては約130題の応募があった。
- (3) 就労継続支援事業
- 27 「労務管理研修」はテーマを「ハラスメント」としたことで募集定員をはるかに超える参加があった。話題性もあり、各事業所の管理職の参加が多かった。参加者からも様々な気付きやこれからの取り組みなどの提案ができたことで研修として成果が得られたと考える。
- 28 「職場の人間関係の在り方～交流分析を通して」は、13名の参加。昨年度は14名の参加で1名減であった。参加者の年齢層も職種も事業種類も多種多様の参加が得られた。「とても良かった」、「良かった」で13名の100%の高評価を得られた。「業

務に活かせる」では13名全員が「はい」の回答であり、参加者にとって有効な研修となった。参加者一人一人に得られるものがあり、多くのものを持ち帰ることができた

- 29 介護カフェ「医療介護義塾まちけあ」は参加者の自主的な活動を支援し、参加者自らが研修を企画・運営し、幹事会を年8回、研修会を3回、懇親会を実施した。
- 30 「サ責カフェ」は有識者から現場の方まで職種を超えて広く参加者とともに、「地域包括ケアシステム構築」のための学びの機会として勉強会を開催。継続して実施するとともに情報・意見交換を行った。

(4) アクティブシニア人材バンク事業

- 31 アクティブシニア介護人材バンク事業を開始し3年度目にあたり、新たな研修参加者、求職登録者の増加や就労先介護施設の拡大を目指して実施した。また、就労者の定着を図るため、丁寧なマッチングやヒアリング、フォローアップに重点を置いて実施した。
 - ① 研修・就労相談事業では、介護の仕事を支える基礎知識を学ぶ「初級研修」（参加者数33名）を実施した。5回計画であったが、7月25日については猛暑のため中止とした。1回あたりの参加者は平均して10名以下と昨年度から半減しており、一定層のニーズを掘り起こし終わったと推測される。今後は、形を変えて、別の入り口から就労につなげることを検討したい。
 - ② アクティブシニア介護人材バンク事業では、研修だけではなく、機会をとらえて事業周知を行った結果、今年度は111名が求職登録した。ヒアリングについては、延べ345人に実施し、丁寧なマッチングに努めた結果、30名が就労につながった。
 - ③ 就労支援事業では、フォローアップ研修を3回実施した。本研修については、対象者を既に登録した方に限らず広く周知し、初級研修に代わる新たな登録者拡大の機会としても位置付けることとして、年度途中から「アクティブシニア特別講座」の名称で広報を行った。研修内容は、就労者や就労を希望するアクティブシニアが、仕事へのモチベーションを高め、介護の仕事に役立つ知識を得ることを目的とし、「隠れ脱水を知っていますか。」、「身体の老化を予防して健康寿命を延ばそう。」、「認知症バーチャルリアリティー体験」などのテーマで行い、61名が参加した。研修への参加を通して情報提供、意見交換を行う機会ともなった。また、就労後一定期間を経過した就労者42名に訪問（電話）によるインタビューを実施した。
 - ④ アクティブシニア通信第8～12号を発行し、研修の案内、就労者へのインタビュー、求人情報等を記事として掲載し、情報提供の充実を図った。
 - ⑤ ホームページを一新し、就労までの詳細や就労者へのインタビュー、求人情報を掲載し、スマートフォンからの求人・求職登録を可能にするなどさらなる周知とコンテンツの充実を図った。
 - ⑥ 就労先の確保の為、現状の求人登録先への確認・連絡の他にハローワークミニ面接会参加法人への周知及び確認連絡等や就労者インタビューからの新たな求人情報等を活用する事で324件の求人情報登録に繋がり、求職者に対して多様な選択幅を広げる事と30名就労で介護保険施設での人材不足の一端を補う事につながった。

(5) 受託事業

32 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト事務局事務委託事業

定例協議会 年3回、研修会 年2回を事務局事務として町田市担当部署の高齢者福祉課と連携した。協議会開催に係る連絡調整、事務等、協議会に関する啓蒙活動（ホームページ、フェイスブック等）などを実施

33 要介護認定調査業務

年間件数：1951件受託

34 町田市認定調査員研修事務業務

- ・新規研修 年3回 新任調査員を対象とした研修を町田市役所にて実施。延べ76名参加。前年度より回数は1回減だが参加者総数は16名増となった
- ・出張研修 年4回実施。2017年度新規受講生及び2018年の2回目までの受講生を対象に実施。テーマ「間違い易い項目と選択・伝わり易い特記事項」、忠生・南・鶴川市民センター、市役所で実施。延べ67名参加。昨年度より22名増となる。
- ・内部研修 年3回 町田市調査員、事務受託法人の認定調査員向け「認定調査・電話対応時等のマナー」「調査票のチェックポイントと再確認、聞き取り方で見えてくる対象者の姿」「発達障害が疑われる高齢者の理解と認定調査」の研修を町田市役所にて実施。延べ98名参加。
- ・現任研修 年2回 町田市内の全受託法人の認定調査員向け研修として「発達障がいを持つ高齢者について」をテーマとし健康福祉会館と市民フォーラムで日中・夜間で実施。延べ231名参加

35 まちいきヘルパー養成研修業務

1回20時間コース（1日5時間を4日間）の研修を1回実施した。事業所へのアンケートより事業所が雇用を希望するまちいきヘルパーの人数が73名であったことから定員を各60名に決定し、受講者を募集したところ22名の応募があり、19名が修了した。「まちいきヘルパー」として4名が就労に至った。

(6) ネットワーク促進事業

36～40 会員総会、理事会、運営員会、ネットワークサポート委員会は適宜実施した。委員会（39）は今年度設置しなかった。

41・42 町田市高齢者福祉施設部会、生活相談員連絡会では、事務局として、特養の特例入所指針見直しや医療処置対応一覧作成等に取り組んだ。

43 町田市通所事業所連絡会では、事務局として、連絡会活動の支援や事業所プロフィールシートの取りまとめ、各部会の調整や部会実施に取り組んだ。

44 町田市福祉用具事業所連絡会では、研修やケアマネジャーとの連携などを事務局として支援した。連絡会として「アクティブ福祉 in 町田」に参加し、福祉用具の展示を行った。また「住宅改修研修会」での貸し出しに協力した。

- 45 町田市訪問看護ステーション連絡会では、連絡会主催の研修等を事務局として支援した。また、情報誌などの取りまとめも実施した。
- 46 町田市特定施設事業所連絡会では、連絡会主催の研修等を事務局として支援した。
- 47 「脳卒中患者の在宅復帰に向けたアプローチ」町田市医師会と共催研修として、医師会のドクターを講師に迎え開催。59名の申し込みに48名の参加が得られた。
- 48 「エンド・オブ・ライフケア」町田市医師会と共催研修として、医師会のドクターを講師に迎え開催。105名の申し込み当日参加も入れ93名（当日キャンセル22名）の参加が得られた。
- 49 各種団体からの研修会の企画の企画は要望がなく実施に至らなかった。
- 50 「会員交流会」を開催し、顔の見える関係づくり、情報交換を行った。
- 51 TV会議システムの活用は、町プロでのTV中継などを実施した。
- 52 一般社団法人グランハートからの公開講座等は、今年度は要望がなかったため未実施となった。
- 53・54 会員事業所への情報提供では、会員や行政、医療機関、関係団体等の情報をメールで随時配信した。「まちカフェ」に出展し市民向けの講習会や介護人材バンクの紹介を行った。また、SNSを通じたセンター事業の紹介、広報誌の作成、ホームページのリニューアルを行った。
- 55 町田市内医療・介護関係事業所における事業種別等の「連絡会」との連携の強化に継続して取り組み、組織化への支援として町田市訪問マッサージ連絡会は今年度より事務局を担当。町田市グループホーム連絡会は次年度より事務局を担当することになった。町田市ケアマネジャー連絡会とも研修企画などに参画した。また、町田市や町田市社会福祉協議会等の外部委員会への推薦委員派遣を通して、行政等への提案や地域の高齢者福祉サービスの向上に取り組んだ。

※ 各事業の詳細は、別紙「2018年度町田市介護人材開発センター事業報告・参加者数」参照

【会員団体事務局】

- ・町田市高齢者福祉施設部会－生活相談員連絡会
- ・町田市通所事業所連絡会
- ・町田市福祉用具事業所連絡会
- ・町田市訪問看護ステーション連絡会
- ・町田市特定施設事業所連絡会
- ・町田市訪問マッサージ連絡会

【運営委員会・委員推薦団体】

- ・町田市高齢者福祉施設部会
- ・町田市介護老人保健施設
- ・町田市ケアマネジャー連絡会
- ・町田市通所事業所連絡会
- ・町田市訪問介護事業者協議会

- ・町田市グループホーム連絡会
- ・町田市訪問看護ステーション連絡会
- ・町田市社会福祉協議会
- ・町田社会福祉士会
- ・東京都介護福祉士会町田ブロック会
- ・町田市福祉用具事業所連絡会
- ・町田市特定施設事業所連絡会
- ・町田市訪問マッサージ連絡会

【推薦委員を派遣している外部委員会】

1	町田市高齢社会総合計画審議会	尾和瀬 久展（芙蓉園）
2	町田市地域密着型サービス運営委員会	吉田 美香（清風園）
3	町田市高齢者支援センター運営協議会	小室 貴之（楓の風）
4	町田市介護保険苦情相談調整会議・介護苦情解決専門員	折原 太（まちだ正吉苑）
5	町田市高齢者虐待防止連絡協議会	佐々木 修（椿）
6	町田市老人ホーム入所判定委員会	田中 善美（合掌苑） 北川 達三（第二清風園）
7	町田市中学生職場体験推進協議会	多田 周史
8	町田市男女平等参画協議会	石原 正義
9	町田市社会福祉協議会評議員	多田 周史
10	町田市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会	藤田 康子（友愛荘）
11	町田市社会福祉協議会共同募金配分推薦委員会	小林 清子（ヴィラ町田）
12	町田市支えあい連絡会（生活支援コーディネーター）	石原 正義

2018年度町田市介護人材開発センター事業報告・参加者数

2019/3/31 現在

事業種別	内容(対象・回数・時間・定員・会費)												合計	2017年度実績					
	01	02	03	04	05	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			11月	12月	1月	2月	3月
人材 確保 事業	01 介護・福祉ミニ面接会	高齢者福祉への就労を希望、関心を持っている求職者 毎月第3水曜 9:30~12:00 6~7法人/回 ※()内は採用実績 ハローワーク町田	12(3)	5(0)	14(2)	10(1)	8/4 97	15(1)	9(2)	5(1)	12(1)	2(20)	15(4)	113(18)	163(30)				
	02 地域密着型就職面接会・福祉のしごと相談面接会(協力)	身近な地域で、福祉の仕事希望する方、その他、関心のある方 年1回 12:00~16:00 町田市民フォーラム												97	93				
	03 福祉のしごと就労フェアin町田	介護福祉職を目指す学生 年1回 13:00~16:30 町田市文化交流センター													4	14			
	04 市民向け基礎介護技術講習会	市民、事業所職員 年3回 13:00~17:00 清風園、いづみの里、桜葉会 東京都介護福祉士会町田ブロック会						9/2 25				2/3 25			81	71			
	05 学校での特別事業	年2回~希望する学校 町田福祉保健専門学校、都立野津田高等学校								10/10 32			3/18 25		57	81			
09 介護人材バンク	介護の仕事相談・求職登録会	4/25 4	5/23 3	6/27 2	7/25 6	8/22 5	9/26 1	10/24 1	11/28 5	12/19 66	1/23 15	2/27 0	3/27 4	34	37				
介護保険課 共催	法令遵守	法令遵守・運営基準・法改正研修 年5回 18:30~20:30 定員:100名 町田市健康福祉会館他																	
	相談援助	相談援助研修(初級編) 全5回 14:00~16:00 定員:50名 町田市健康福祉会館 佐藤ちよみ氏(別人援助スキルアップ研究所 所長)																	
		相談援助研修(上級編) 全5回 13:30~16:30 定員:50名 町田市健康福祉会館 堀越由紀子氏(東海大学 教授)					50												
高齢者福祉 課共催	支援センター	高齢者支援センター職員研修①虐待への対応 年(回) 18:30~20:30 定員:30名 町田市健康福祉会館 川村孝徳氏(公益社団法人あい権利擁護支援ネットワーク 理事、社会福祉士)																	
		高齢者支援センター職員研修②権利擁護 年(回) 18:30~20:30 定員:50名 町田市健康福祉会館 町田市社会福祉協議会、町田市内関係者																	
		施設職員虐待防止研修 年(回) 18:30~20:30 定員:50名 町田市健康福祉会館 講師:未定																	
分野・領域別	基礎知識・技術	新任職員研修 年(回) 9:30~16:30 定員:30名 町田商工会議所 高田静江氏、大員祐子氏、是枝祥子氏(法人代表理事、大妻女子大学名誉教授)																	
	リーダー育成	ケアリーダー育成研修(アクティブ含む) 全6回 9:30~16:30 定員:20名 町田商工会議所 是枝祥子氏(法人代表理事、大妻女子大学名誉教授)	4/25 16		6/20 16	7/18 16							10/26 16		64	45			

2018年度町田市介護人材開発センター事業報告・参加者数

専業種別	内容(対象・回数・時間・定員・会場)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2017年度実績		
育成事業	18 認知症ケア実践研修 年回 13:30~16:30 定員:30名 グランハート町田 講師:佐々木 幸氏									12/4				36	-		
	19 リスクマネジメント 職員向け介護技術講習会 全3回 18:00~21:00 定員:20名 清風園 良塚誠一郎氏(良塚ケアサービス研究所代表)						8/30	9/13 9/27							17	-	
	20 多職種連携 事故事例から学ぶ原因分析と再発防止 全3回 全3回 13:00~17:00 定員:30名 グランハート町田 良塚誠一郎氏(良塚ケアサービス研究所代表)						8/31	9/14 9/28							17	29	
	21 分野・領域別 ファンリネーター養成研修 全3回 14:00~16:00 定員:30名 町田商工会議所・町田市民フォーラム 講師:岸 千代氏(武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センター)											2/22	3/8 3/22			45	
	22 資格取得 BPSDの原因と理解・支援方法を学ぶ 18:30~20:30 定員:30名 グランハート町田、町田市民フォーラム 講師:未定										12/18				83	-	
	23 講師派遣 生活保護制度の理解 18:30~20:30 定員:30名 グランハート町田、町田市民フォーラム 講師:未定										83				83	-	
	24 研究発表会 介護福祉士国家試験直前講座 筆記編									11/17					8	10	
	25 メンタルヘルス 出張訪問研修 1回2時間~希望による	4/24	5/16 5/22	6/22	7/6 7/11	7/6 7/11		9/18 9/26		11/6 11/12 11/20	12/27	1/22		3/7 3/15	422	196	
	26 自己啓発 アクティブ福祉in町田'18 年回 11:00~18:00 町田市文化交流センター 研究発表大会・介護用品・福祉用具展示PRコーナー	36	28 18 22	21 61					10/26						443	554	
	27 相互啓発 労務管理研修 回数:未定 定員:30名 町田市民フォーラム 講師:山田 隆氏										12/17				34	-	
	就労継続	28 自己啓発 職場の人間関係の在り方~交流分析を通して 年回 13:30~16:30 定員:30名 町田市民フォーラム 佐藤ちよみ氏(対人援助スキルアップ研究所 所長)														13	14
		29 相互啓発 介護カフェ 月回 18:30~20:30 分室	4/20	5/18	6/15	7/20	8/17	9/21	10/19		11/16	12/21	1/18	2/15	3/15	166	-
		30 相互啓発 サ責カフェ 月回 18:30~20:30 分室	5	5 5 4	4	71	6	15	4		5	5	9	4	33	166	-
		31 アクティビニア介護人材バンク 初級研修(年5回) 年5回 10:00~13:00 定員:30名/回 町田市民フォーラム 他 遠藤信子氏(元園田師範大学准教授、社会福祉法人らつく理 業)	4/18	5/16	6/20	7/18	8/15	9/19	10/17		11/21		1/16	2/20		113	-
			12	14	14	11	9	11	10		13		10	9		113	-
				5/23		7/25	中止		9/26		11/28		2/27	5		33	79
			13					10		5			竹清会		10	9	
									10/19	11/30		2/8			61	67	
								18	25		18			61	67		

2018年度町田市介護人材開発センター事業報告・参加者数

2019/3/31 現在

事業種別	内容(対象・回数・時間・定員・会場)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2017年度実績
多様な担い手創出事業(委託)	女性のための再就職応援セミナー 年回 10:00~14:00 市民ホール										1/15 10(1)			10	
	在住外国籍市民と介護関係者の交流会 年回 19:00~21:00 文化交流センター											2/23 59		59	
	介護の入門的研修 年回 10:00~16:00 新産業創造センター											2/7・12・14・21 23(3)		23	

※アクトエブ福祉町田のみ参加者総数、その他は参加実人数です。

2018年度 収支報告書(案)(総括表)
自:2018年4月1日 至:2019年3月31日

一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

《収入の部》

大区分	中区分	決算額	予算額	差額	備考	
町田市補助金収入		20,000,000	20,000,000	0	センター事業、アクティブシニア介護人材バンク事業	
センター事業収入	参加費収入	2,214,000	1,909,000	305,000	研修などの参加費(資料代含む)	
	広告料収入	260,000	350,000	△ 90,000	アクティブ福祉in町田 当日冊子への掲載	
	手数料収入	968,663	1,500,000	△ 531,337	人材バンク職業紹介手数料(6名分)	
	計	23,442,663	23,759,000	△ 316,337		
法人収入	会費収入	3,442,700	3,350,000	92,700	正会員会費:3,434,700円、賛助会員:8,000円	
	受託収入(町田市)		2,600,000	2,500,000	100,000	町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会事務局事務
			15,025,500	16,200,000	△ 1,174,500	町田市要介護認定調査業務
			1,387,500	1,387,500	0	町田市要介護認定調査員現任研修事務局事務
			2,000,000	2,000,000	0	まちいきヘルパー養成研修業務
			170,000	170,000	0	地域活動団体型サービス実施責任者向け登録前研修業務
			30,000	30,000	0	町田市介護相談員「接遇研修」業務
			2,500,000	2,500,000	0	町田市介護の多様な担い手創出事業業務
	計	23,713,000	24,787,500	△ 1,074,500		
	参加費収入	65,000	0	65,000	連絡会研修参加費、外国人交流会参加費	
	その他事業収入	70,000	160,000	△ 90,000	多職種連携研修会の企画	
	交流会参加費収入	1,136,000	400,000	736,000	大会交流会、多職種連携研修懇親会	
	受取利息収入	120	0	120	受取利息	
	受託事業振替収入	500,000	500,000	0		
雑収入		0	0			
計	28,926,820	29,197,500	△ 270,680			
収入計①		52,369,483	52,956,500	△ 587,017		
投資活動収入②		10,000		0	保証金戻り収入	

《支出の部》

大区分	中区分	決算額	予算額	差額	備考
管理費支出		184,583	200,172	△ 15,589	役員報酬等
事業費支出		50,347,363	47,967,705	2,379,658	
	人材確保事業費	3,997,327	3,148,907	848,420	面接会、就活フェア、介護技術講習会、調査、有料職業紹介
	人材育成事業費	8,471,270	7,773,985	697,285	研修、アクティブ福祉in町田
	就労継続支援事業費	445,936	407,551	38,385	研修、介護カフェ、サ責カフェ
	アクティブシニア人材バンク事業	10,035,034	10,010,596	24,438	
	ネットワーク促進事業費	5,088,842	4,631,288	457,554	ネットワーク促進活動費等(連絡会、交流会・懇親会含む)
	受託事業費	21,808,954	21,495,378	313,576	町田市受託業務
	ネットワーク促進事業振替支出	500,000	500,000	0	
支出計③		50,531,946	48,167,877	2,364,069	
法人税等④		1,161,200	1,710,000		法人税、消費税
予備費⑤			378,623	△ 378,623	
投資活動支出⑥		340,000	340,000	0	
	敷金支出	340,000	340,000	0	山崎事務所分割払敷金
当期収支差額 (①+②)-(③+④+⑤+⑥)		346,337	2,360,000	△ 2,572,463	
前期繰越金		9,173,274		9,173,274	
次期繰越金		9,519,611		9,519,611	

※参考(事務局経費)

	決算額	予算額	差額	備考
人件費	32,395,105	32,408,625	△ 13,520	常勤5名、嘱託2名、非常勤19名(3月末付)
経費	8,997,422	5,289,733	3,707,689	
合計	41,392,527	37,698,358	3,694,169	

決 算 報 告 書

(第 7 期)

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

正味財産増減計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日（決算）まで

法人名：一般社団法人町田市介護サービスネットワーク
事業名：事業全体

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
会費収入	3,442,700	3,319,500	123,200
正会員受取会費	3,434,700	3,307,500	127,200
賛助会員受取会費	8,000	12,000	△4,000
事業収入	28,426,663	22,468,452	5,958,211
参加費収益	3,415,000	2,861,000	554,000
広告費収益	260,000	330,000	△70,000
町田市受託収益	23,713,000	18,717,200	4,995,800
その他事業収益	70,000	126,000	△56,000
手数料収益	968,663	434,252	534,411
受取補助金等	20,000,000	20,000,000	0
受取地方公共団体補助金	20,000,000	20,000,000	
雑収益	120	1,078	△958
受取利息	120	78	42
雑収益		1,000	△1,000
他会計からの繰入額	500,000	500,000	0
受託事業会計からの繰入額	500,000	500,000	
經常収益計	52,369,483	46,289,030	6,080,453
經常費用			
事業費	44,540,758	38,932,511	5,608,247
給料手当	28,390,088	22,634,041	5,756,047
通勤手当	910,734	900,710	10,024
福利厚生費	198,659	162,452	36,207
旅費	27,578	14,990	12,588
通信運搬費	1,164,433	1,100,016	64,417
消耗什器備品費	288,627	258,865	29,762
消耗品費	755,168	351,757	403,411
広告宣伝費	733,210	493,112	240,098
印刷製本費	1,409,912	1,380,543	29,369
保険料	11,454	9,920	1,534
光熱水料	316,702	308,352	8,350
賃借料	2,870,307	4,365,132	△1,494,825
会場借上費	707,414	601,952	105,462
諸謝金	2,290,588	1,567,596	722,992
租税公課	2,300	5,000	△2,700
法定福利費	2,895,624	2,510,374	385,250
車両託	437,189	272,385	164,804
委託費	736,368	747,436	△11,068
雑費	394,403	1,247,878	△853,475
管理費	5,866,931	1,964,574	3,902,357
役員報酬	184,583	175,675	8,908
会議費	99,640	73,025	26,615
通信運搬費	198,173	175,192	22,981
通減価償却費	1,230,599	718,629	511,970
消耗品費	194		194
広告費	32,400		32,400
車両借上費	95,320		95,320
賃借料	1,351,852	31,922	1,319,930
会場借上費	24,240	17,580	6,660
租税公課	941,200	11,200	930,000
諸費	49,000	49,000	
雑費	1,659,730	712,351	947,379

正味財産増減計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日（決算）まで

法人名：一般社団法人町田市介護サービネットワーク

事業名：事業全体

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
他会計への繰出額	500,000	500,000	0
ネットワーク会計への繰出額	500,000	500,000	
経常費用計	50,907,689	41,397,085	9,510,604
評価損益等調整前当期経常増減額	1,461,794	4,891,945	△3,430,151
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,461,794	4,891,945	△3,430,151
経常外増減の部			
経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,461,794	4,891,945	△3,430,151
法人税、住民税及び事業税	235,000	513,300	△278,300
当期一般正味財産増減額	1,226,794	4,378,645	△3,151,851
一般正味財産期首残高	10,638,767	6,260,122	4,378,645
一般正味財産期末残高	11,865,561	10,638,767	1,226,794
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	11,865,561	10,638,767	1,226,794

貸借対照表

平成 31 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	9,271,554	10,115,866	△844,312
現 金	35,744	86,018	△50,274
普 通 預 金	9,235,810	10,029,848	△794,038
未 収 金	3,277,319	2,618,117	659,202
前 払 金	326,718	322,465	4,253
仮 払 金	6,934	158	6,776
流 動 資 産 合 計	12,882,525	13,056,606	△174,081
固 定 資 産			
そ の 他 固 定 資 産			
設 備 造 作	41,762	114,093	△72,331
車 両 運 搬 具	748,997		748,997
什 器 備 品	230,391	356,600	△126,209
敷 金	1,324,800	984,800	340,000
保 証 金		10,000	△10,000
そ の 他 固 定 資 産 合 計	2,345,950	1,465,493	880,457
固 定 資 産 合 計	2,345,950	1,465,493	880,457
資 産 合 計	15,228,475	14,522,099	706,376
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
未 払 金	995,190	2,260,703	△1,265,513
前 受 金	1,150,400	1,065,600	84,800
預 り 金	56,124	43,729	12,395
未 払 消 費 税 等	926,200		926,200
未 払 法 人 税 等	235,000	513,300	△278,300
流 動 負 債 合 計	3,362,914	3,883,332	△520,418
負 債 合 計	3,362,914	3,883,332	△520,418
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	11,865,561	10,638,767	1,226,794
正 味 財 産 合 計	11,865,561	10,638,767	1,226,794
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	15,228,475	14,522,099	706,376

財 産 目 録

平成 31 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

事業名：事業全体

(単位： 円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流 動 資 産)			
現金	手元保管	運転資金として	35,744
普通預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	6,803,760
	八千代銀行	運転資金として	2,432,050
未収金	受託費	町田市 認定調査3月分他	3,277,319
前払金	4月分家賃、共益費	家賃、会場代、広告掲載費	326,718
仮払金	未精算分	仮払精算分残	6,934
流動資産合計			12,882,525
(固 定 資 産)			
その他固定資産			
設備	パーティション	人材バンクで使用	41,762
車両運搬具	アルト、N-WGN		748,997
什器備品	システムサーバー他	管理業務で使用している	230,391
敷金	山崎町2055-2C-111	事務所	1,324,800
固定資産合計			2,345,950
資産合計			15,228,475
(流 動 負 債)			
未払金	パソコン他	3月分経費の未払分	995,190
前受金	次年度会費収入	ネットワーク促進事業の会費	1,150,400
預り金	源泉所得税預金	源泉所得税、社会保険料納付分	56,124
未払消費税等	確定消費税	町田税務署	926,200
未払法人税等	法人税都民税市民税	町田税務署、町田市役所、県税事務	235,000
流動負債合計			3,362,914
負債合計			3,362,914
正味財産			11,865,561

財務諸表に対する注記

法人名：一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

事業名：事業全体

1. 重要な会計方針

(1) 会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年12月1日 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法（ただし、建物附属設備は定額法）を採用しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	2,826,354	2,595,963	230,391
車両運搬具	1,002,160	253,163	748,997
建物附属設備	216,561	174,799	41,762
合 計	4,045,075	3,023,925	1,021,150

2018年度監査報告書

2019年 5月 27日

一般社団法人町田市介護サービスネットワーク

代表理事 是枝 祥子 殿

監事 谷 和久

監事 諫 山 英 一

1. 監査の実施概要

定款第25条に基づき、一般社団法人町田市介護サービスネットワークの2018年度（監査対象期間、2018年4月1日～2019年3月31日）の会計の状況について監査を行いました。

監査日時 2019年 5月 27日（月） 17:00～18:00

監査場所 グランハート町田 レンタルルームトマト

2. 監査意見

収支決算書、貸借対照表、及び関係書類について監査した結果、その内容は適正であると認めます。

以上の通り報告致します。

第3号議案 会員規程改定（案）

<議案説明>

- (1) 前回の改定（2016年3月14日）以降、既存の事業所連絡会より事務局を委託されることが増えております。組織図を「別紙1」として、新たに事務局を担う事業所連絡会（会員連絡会）が増えた場合、「別紙1」に追加することにより、適時、会員規程に記載し公に周知を行うことができるよう、下記のとおり、第11条第2項の改定を行います。

第11条 第2項

改定前	改定後
(2) 連絡会等 ①町田市高齢者福祉施設部会 －生活相談員連絡会 ②町田市通所事業所連絡会 ③町田市福祉用具事業所連絡会 ④町田市訪問看護ステーション連絡会 ⑤町田市特定施設事業所連絡会	(2) 町田市内介護保険関係事業所連絡会 等（別紙1参照）

改定後の組織図（別紙1）に追加する連絡会

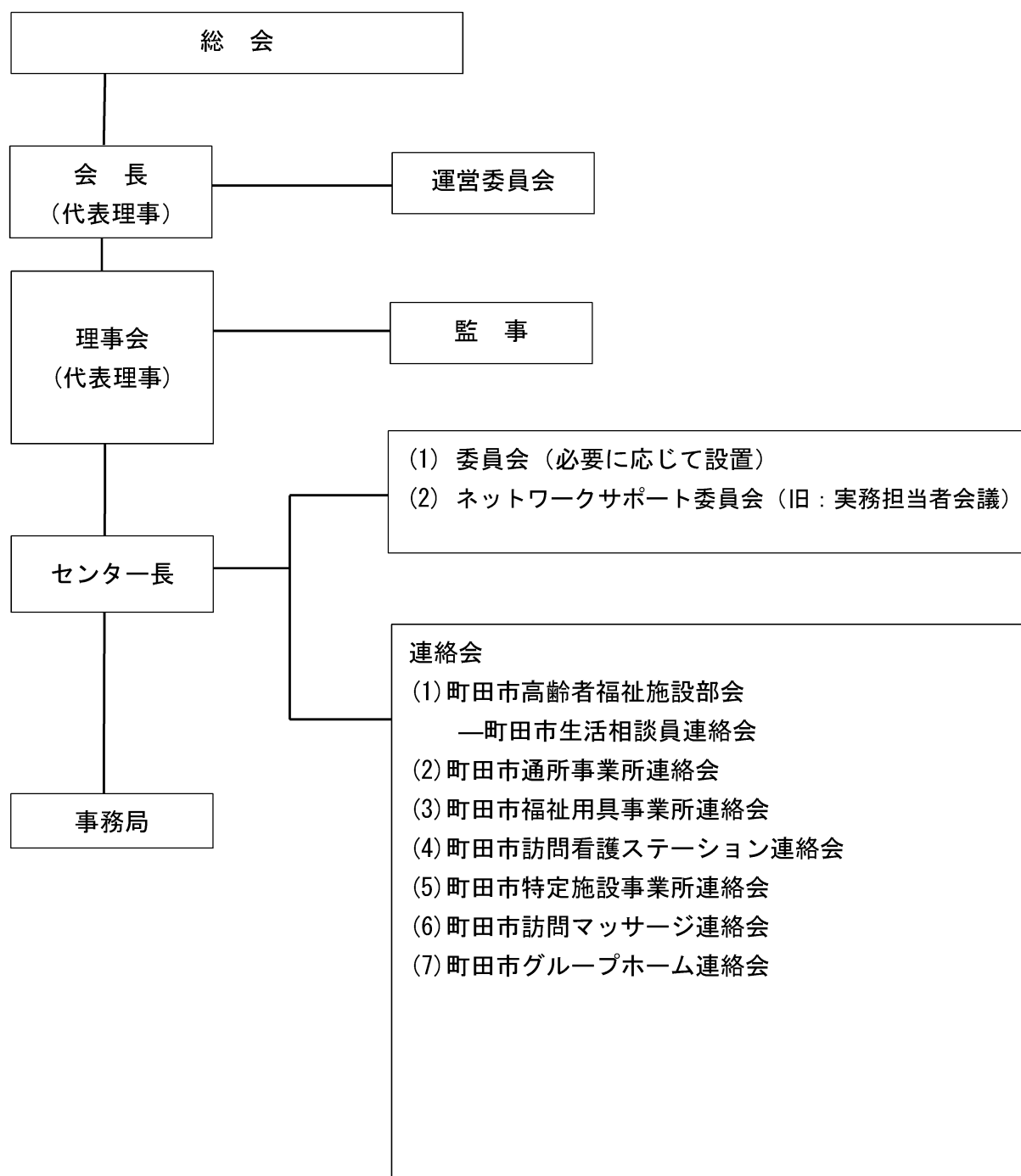
- ・町田市訪問マッサージ連絡会
- ・町田市グループホーム連絡会

(2) 会費基準の変更

新たな介護保険サービス等が増え、入会を希望する関連事業所も増えていることを考慮し、当法人の目的に賛同する事業所等の加入を促進するとともに区分を設けることでよりわかりやすいものとするため、会費基準を会員規程の「別紙2」とし改定を行います。なお、会費の変更はありません。

【別紙1】

一般社団法人町田市介護サービスネットワーク 組織図



【別紙2】一般社団法人町田市介護サービスネットワーク 会費基準

《正会員》

正会員とは、当法人の目的に賛同して入会した町田市に所在する介護保険法並びに老人福祉法等に基づく施設及び関連事業所等

区分	事業所種別	基準
1	介護老人福祉施設（併設短期入所生活介護含む）	300円／利用者1名 上限60,000円
2	介護老人保健施設（併設短期入所療養介護含む）	300円／利用者1名 上限60,000円
3	介護療養型医療施設・介護医療院（併設短期入所療養介護含む）	300円／利用者1名 上限60,000円
4	有料老人ホーム（地域密着型特定施設入居者生活介護・特定施設入居者生活介護含む）を含む高齢者向け住宅等	300円／1居室 上限30,000円
5	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 養護老人ホーム、軽費老人ホーム 等	300円／利用者1名
6	短期入所生活介護（単独型）	1事業所5,000円
7	訪問看護 訪問リハビリテーション 訪問介護 訪問入浴 居宅療養管理指導 等	1事業所5,000円
8	通所介護・通所リハビリ（30名以上）認知症対応型通所介護含む	1事業所10,000円
9	通所介護・通所リハビリ （19名以上29名以下）認知症対応型通所介護含む	1事業所5,000円
10	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	1事業所5,000円
11	地域密着型サービス等 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 看護小規模多機能型居宅介護 夜間対応型訪問介護 地域密着型通所介護 認知症対応型通所介護 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 等	1事業所5,000円
12	居宅介護支援・介護予防支援（地域包括支援センター含む）	1事業所5,000円
13	法人の目的に賛同して入会した関連事業所（訪問マッサージ等）	1事業所5,000円

《賛助会員》

賛助会員とは、法人の目的を賛助するために入会した個人又は団体

個人		1,000円
団体	正会員に該当しない団体	5,000円